

令和6年度 田園の里 新田学園 学校評価書

【4段階評価】 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

【本年度の重点目標】

キャリア教育を学校教育の基盤に位置付け、「夢や希望」「継続と挑戦」「学力・体力の向上」を取組の柱として、学校の教育目標「夢や希望をもち、心豊かにともに伸びゆく新田の子どもの育成」に迫る。小学部と中学部の総力を傾注して、地域に根ざした小中一貫校を創造する。

夢や希望 学ぶ目的や成長に必要な学びを自覚し、自分の生き方を考える教育活動

評価指標	具体的な数値目標	方策・手立て	評定	
			指標別	総合
◆ 自己理解、他者理解の機会の推進	自分の良さや友達の良さが言える児童生徒100%をめざす。	良さを褒めたり、良さに目を向けた肯定的な言葉かけを行ったりすることで、自己肯定感の育成を図る。	3.7	3.5
		友達の良さを知り、認めることで、互いに刺激し合いSWPBS（ポジティブな行動支援）の視点を取り入れ、切磋琢磨できる人間関係の形成を図る。	3.8	
	全学年で地域について学ぶふるさと学習を位置付けることをめざす。	地域の施設や人材等を活用した学習を行うことで、SDGsの授業の充実を図り、地域のよさを実感するとともに学校での学びと社会生活との関連への気付きを促す。	3.2	
◆ 進路や生き方、将来に対する夢や希望について考える機会の設定	生き方や将来の夢や希望について考えている児童生徒90%以上をめざす。	高校説明会や職業講話、職場体験学習等を教育課程に位置付けることで、将来に対する夢や希望をもたらせるとともに生き方について考え方、進路選択についての意欲付けを図る。	3.1	

【結果の考察・分析及び改善策】

- ふるさと学習・進路や生き方の回答がよい傾向の裏には、よい人材を活用できたことが考えられる。
- 友だちのよさに気付くことは自分のよさに気付くことにも繋がる。教師の肯定的な言葉かけや、どの児童生徒にも「褒めること」を今後とも続けてほしい。それが日々の充実感、意欲的な行動、そして将来の夢や職業選択に繋がると思う。
- 教師のアンケートでキャリア教育（4）の評価が低かったが、現代の就職環境・就業意識は私たち親世代の頃と随分様変わりしている。新しい働き方、稼ぎ方が主流となりつつある今、職業人として求められる資質や能力も変わってきていているのだと思う。そんな中、子どもたちに向かって指示するのは大変だなと思った。
- 自己肯定感や友だちのよさを認め合う人間関係の評価が高く、安心で居心地のよい学校・学級づくりをしていただいている。
- 中学生になる総合学習でのふるさと学習に対する意識の高さが伺えた。また、キャリア学習の機会を設け、キャリアパスポートの活用することで小中一貫したキャリア教育に役立つ。
- 保護者は子どもの内面評価が厳しくなる傾向があるかもしれないが、先生方の日々の努力で自分自身や相手のよさを見つめることができるのは大変素晴らしい。今後も継続をお願いしたい。
- 授業の中で必要な経済（お金）の学習を取り入れてほしい。
- 将来のことには学校だけでなく、広く十分に家庭において話し合う機会をもってもらいたい。
- 友だちのよい所に気付いている子が自分のよい所にも気付いてほしい。互いに認め合うことで自分のよい所に気付きやすくなるのではないか。
- 生涯学習課が実施する体験活動への参加が少ない感じる。送迎の問題もあると思うが、積極的に参加してほしい。
- 朝の登校指導をしているが、挨拶がいまいち。こちらからすれば返すが、率先して挨拶する生徒は少なく感じる。

継続と挑戦 挑戦できる環境を整え、挑戦する過程で成長を実感し、さらに高みをめざす教育活動

評価指標	具体的な数値目標	方策・手立て	評定	
			指標別	総合
◆ 規範意識の醸成と凡事徹底	挨拶、返事、整理整頓ができる児童生徒80%をめざす。	凡事徹底の項目を挨拶、返事、整理整頓に絞って指導し、当たり前のことを当たり前に継続して実践することの意識化を図り、規範意識を醸成する。	2.9	3.2
	継続したり挑戦したりする経験を通して自己の成長を実感する児童生徒100%をめざす。	ステージや学部の先輩の姿に憧れをもち、その姿に近づくために挑戦を継続する過程で、見届けと励ましの言葉かけを組織的に行い成長を実感させ、継続と挑戦を促す環境の充実を図る。	3.0	
	いじめ認知100%、解決に向けた対応100%をめざす。	毎月のいじめアンケート結果や問題行動等に関する情報を共有することでいじめを認知するとともに、いじめ不登校・校内支援委員会で慎重かつ迅速な対応を協議し、いじめの解決をめざす。	3.4	
◆ いじめ防止と不登校への組織的対応	不登校対応の組織を作った支援100%をめざす。	学級担任や養護教諭、特別支援教育コーディネーターをはじめ、外部専門家であるSC、SSW等の支援を含めた組織を強化し、支援や相談体制の充実を図る。	3.4	
	リフレッシュデーの100%実施をめざす。	毎週水曜日をリフレッシュデーとして、時間外勤務時間の削減に努める。	3.4	
◆ 時間管理と健康管理ができる職員の育成	「働き甲斐」や「ウェルビーイング（幸福感）」を感じる職員80%を目指す。	職員が「働き甲斐」や「ウェルビーイング」を感じられる働き方改革に努める。	3.3	

【結果の考察・分析及び改善策】

- 外部専門家との支援・連携が上手く行えていると感じる。
- いいねは絶対にしない、させないという指導がなされているのがアンケート結果からわかった。これが新田学園の子どもたちの仲のよさに繋がっていると思う。今後とも子どもたちの声にしっかり耳を傾けてほしい。
- そのためには、先生方の心の余裕が必要。児童生徒と雑談とかができる時間が取れるといい。
- 先生さんは相談や悩みを聞いてくれないと感じる生徒がいることだが、子どもの権利条約【4つの基本原則】にある『子どもの意見尊重』を守ろうとする国が『子どもアドボケイト』の取組を広めているようなので学校でも取り入れてはどうううか。
- 先生方の働き方改革が進んでおり、よかったです。
- 学校行事等、いろいろな学習活動の場面で子どもたちは挑戦し、成長を実感している。
- いじめ防止の子どもたちや保護者の意識が高く、生徒会活動や日常の生徒指導のおかげであると感じる。小学校低学年得意向がもう少しと感じる。
- 不登校生への支援をよくしていただいている。
- 働き方改革を推進するため、部活動の地域移行に協力します。
- リフレッシュデーの水曜日実施は、定期実行に結び付きました。ただ、小学校の先生方は多忙感の改善へもう少しのよう。
- 交通安全週間等で登校の見守りを行いつつ挨拶に少し物足りなさを感じる。
- 整理整頓については児童生徒と保護者との意識が見られる。学校ではできても家庭ではできないのでは。特にプリント類の整理ができていない。
- いじめに対する意識は高いと感じた。面と向かってだけでなく、SNS上でも意識を持ってほしい。
- 先生方への相談は子どもたちが高く評価している。保護者からの相談の受け入が検討の余地と思う。
- 時間管理と健康管理の育成の部分で、小学校・中学校の「あまりそう思わない」と回答している小学校の深掘りが必要である。
- 「いいねアンケート」結果の「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した生徒が、なぜそう思ったのかを深掘りする必要がある。
- 挨拶ができる子とそうでない子がいる。その違いはどこから出でてくるのか。挨拶に対する「意識のちがい」だと感じる。大人が手本を示し、「褒めてやる」ことであると思う。集会の場等で取り上げて欲しい。
- 規範意識はそれぞれであると違う。特に弁達障害（自閉傾向）の傾向のある方には「こだわり」という特性があり、定型弁達の方とは違う感じ方、見え方、考え方等のため、この「こだわり」は他者と共にされにくく、規範意識の低いひとと見られてしまう。他者の目があがまでも注意を向けても（本人は損得勘定なし）そう振るわざるを得ない状況を理解し、丁寧な支援をお願いしたい。
- 基本的生活習慣（挨拶・整理整頓等）は、保護者の家庭での評価が低いと思うので、家庭との連携が必要。
- 「返事」は各自が心がけさえすればできること。世界辛い世の中になっているからでしょうか、人の関わりを大切に思い、明るい未来を築いていってほしい。
- チャレンジへの働きかけは十分にできているのに意識がもう少しひのは残念。与えられた中で自分で考えていく方向性に向かっていってほしい。家庭の中での役割を小さい時から担っていくと知らず知らずのうちに育っていくと思う。
- 子どもたちも先生方も皆、学校に行くことが「楽しい」と思える日常をお願いしたい。
- 元気に登校する姿は学校が楽しい証拠だと思う。いじめの報告もなく、よい学校だと思う。

学力・体力の向上

職員の授業力と生徒指導力向上による確かな学力・体力の向上をめざす教育活動

評価指標	具体的な数値目標	方策・手立て	評定	
			指標別	総合
◆ 確かな学力の向上	単元テスト80%以上、諸テストにおいて全国平均、県平均以上をめざす。	①めあてとまとめの整合性のある指導、②指導内容の精選、③実態の把握、④発問の精選と説解力の視点を意識した授業を行うことで、学力向上に迫る。	3.4	3.2
	発達の段階に応じた読書冊数を達成する児童生徒80%以上をめざす。	新刊図書の紹介をしたりファミリー読書週間を開けたりすることで、読書に親しむ環境づくりを行い、読書活動を推進する。	2.7	
	宿題の提出率90%以上をめざす。	発達の段階に合わせ、家庭学習の質を高める事例を紹介することで、家庭学習への関心を高め充実を図る。	3.1	
◆ 体力の向上	柔軟性と持久力向上のための運動の実施率80%以上をめざす。	柔軟性と持久力の課題に対応した運動を推奨することで、児童生徒の体力の向上に努める。	3.2	
◆ 生活リズムの向上	「新田学園メディア使用の約束」を守っている児童生徒80%以上をめざす。	「新田学園メディア使用の約束」を活用し、自己の生活を振り返らせたり、教育相談を行ったりすることで、児童生徒の意識化を図り、生活リズムの向上を図る。	3.0	
◆ 効率的な部活動の運営	適度に2日休養日の100%実施をめざす。	「新田学園部活動の基本方針」に則り、部活動休養日を完全実施することで、メリハリのある効率的な部活動運営に努める。	3.7	

【結果の考察・分析及び改善策】

- 生徒との授業が分かりやすいとの回答が多いことからICT教育がしっかり行われていると感じた。
- 子どもの主体的な取組が真的学力向上に繋がる。先生方も大変だろうが、理解度のチェック、個別指導、授業改善等、全職員で頑張ってほしい。
- 「ひなたの学び」の研究・実践を全職員一丸で取り組んでいて子どもたちの授業の分かりやすさは高評価で、学力向上に結びついている。
- 小学生は8割近く読書の習慣があり、継続して読書に親しむ働きかけをお願いしたい。
- 家庭での健康生活の習慣がついていないと保護者の意識があるようだが、子どもたちは健康で体力向上に努めている。
- 部活動の方針に沿って運営できており、子どもたちは休日を有意義に使っている。
- 授業は「よくわかる」との回答から先生方の日々の努力が実っていると感じた。
- 時代の流れが影響に表れている読書習慣の欠如、何とかしたい。
- 何事にも自ら行動できる力が必要になっていくなど改めて感じる。今後も大人が未来を背負っていく子どもたちのために少しでも力になることがあれば力添えていきたい。
- 部活動への休養日は上手くいっていると思う。
- 参観日等で先生方が学力アップに取り組んでいることを感じる。授業改善・工夫していることは素晴らしい。これからもがんばって欲しい。
- 読書は学年にあった本を選ぶことが大事。読解力や文章を書く力の向上に繋がる。
- 部活動への加入が少なくなっていると聞いている。クラブチームに参加している子もいると思うが、体育以外に運動する習慣がない子も多いのではないか。実態が知りたい。
- メディア使用についてよく指導していただき、子どもたちも自覚している。家庭での実践が今一歩だと感じる。
- メディア使用については児童生徒の中でも、これもメディアに該当するという認識が低いと感じる。TVでもYOUTUBEが観られるため、そういう時間もメディアに含めるべきである。
- 生活リズムの向上では、生徒と保護者に差が見られるが、同じ状況から改善てきた地域を探し、モデルにするとよい。
- 朝にも情報の共有をしたらよい。
- 先日の参観日、発表時の声の大きさが気になった。自分の考えを伝えるのならば、どうしたら伝わるのか、伝える方法を考えさせることが大切だと感じる。
- 家庭学習の取組は保護者の理解と協力が必要なので、学校からだけの働きかけだけでは家庭学習の定着は難しいと感じる。
- 宿題が子どもたちにとって「提出すればいい」だけの義務的ななものにならないよう（宿題に解答がついているものが多く、写している子もいる）個別に質や量を調節し、達成感をもたせながら「学ぶことは楽しい」と思えるように配慮する必要がある。